



発行所 岐阜県立中津高等学校 同窓会
総務は山本完六校長
タイトルバックは保母重雄氏 (26回生)



母校創立二〇〇周年 にむかえて

中津高校同窓会会長 吉川光彦 (五回生)

昨年八月二十日発売の週刊朝日に、シリーズ新世紀を担う日本の名門高校ベスト一〇〇(西日本編)というシリーズに母校中津高校のことが掲載されました。二ページにわたって母校の沿革がまとめてありましたが、その中に初めて聞く事柄がありました。終戦直後の混乱の中では「男女共学などもってのほか」「女子に高等教育は不要」といふ、今では想像もつかない反対意見のなか、当時の山

崎校長は県立中津高校への道を選ばれました。しかも生徒の希望を取り入れて、英語、数学、倫理、仏語、独語等、旧制高等学校並みの教科を実現したという記事であります。私が母校へ入学した昭和二十六年にはそのなな教科はありませんでしたが、きつと昭和二十四年男女共学になる直後の話だと思います。当時の先輩達との向学の志はすこいものだと改めて感じ入った次第でありました。



朝日と旭ヶ丘 ('03年1月)

週刊朝日のシリーズは今も残っているかわかりませんが、昨年何を基準に名門高校ベスト一〇〇としたか知りませんが、学校創立以来の年月を物差しにしておけば、一応名門の必要条件にかなうのかと自分なりに思いましました。我が母校もそんなシリーズもの対象となったのであります。

この奨学金制度の問題は単年度で終わることなくある年数の間継続しなければならぬと思います。ですから募金も以前のように、目標の金額を一年間で集めるのではなくて、その金額の何分の一かを、毎年継続して集めるシステムを考えなければなりません。例えば毎年一万円寄付して頂ける奨学金特別賛助会員を一〇〇〇名募集することになります。

次に記念式典であります。現在のところ平成十七年十月の土、日曜日の二日間をかける行方案であります。

定時制発足五十周年を祝っての記念式典や俳優の田中邦衛さんを迎えての記念講演を実施して以来、定時制同窓会は大変元気に活動を続けておられ、加子母・付知・福岡・苗木の四分校と本校の同窓生、恩師の方々、在校生にも呼びかけてお互いの交流を目的に作品展を実施することを計画し、二年前から準備を進めて来た。平成十三年十一月二日から二五日までの四日間披露も兼ねて新体育館で開催された。油彩・水彩・

水画・シルクスクリーン・絵手紙・切り絵・押し絵・などの絵画から、陶芸・木竹工芸・手芸・書・短歌・俳句・写真・盆栽・刺繍・生け花など実に多彩で個性溢れる作品が二二一点も展示された。また、北恵那鉄道歴史保存会が、「思い出北恵那鉄道展」を特別に出展して、当時の形も走らせて再現した模型電車も走らせてくださった。作品展の記事を掲載した「岐阜新聞」(十一、二五付)は、「同窓生や恩師や在校生など世代を超えた作品が来場者を魅了させている。また、通学時に多く利用し、今は廃線になった北恵那鉄道の見守りも、懐かしさうに見入る人もいた」と

小規模かと思っていたが、すくく大規模でプロの作品かと思うようなものが多くびっくりした。「作品展に賭けた先輩達の定時制への思いの強さを感じたが、今の生徒と「ギャップ」を感じる。「作品展を出してみよう」の定時制の方は、非常に優秀な方が多いとあらためて感動した。「この作品展を見て、私も何か趣味を始めた」と思うようになった。四日間を通じて千人余の参観者があり、大変な盛り上がりで、「第二回目を近いうちにやり直したい」との声もあがって

第一日はセレモニーと先輩による講義、第二日は東美濃ふれあい会館において一五〇〇名パーティーを催すと言つては、過去にありましたが、九十年記念事業では学年毎の会とパーティーはあっても、全同窓会員が一同に会するパーティーは不可能でありました。関東O日会は毎年十一月に学東O日会を開催されます。名古屋では毎年十月に開催されますが、先輩、後輩も一緒に会を中津川で開催したい、それを一〇〇周年には是非との声でありました。勿論中津川周辺だけで一五〇〇名集めることは無理であります。その半分は関東、名古屋はじめ全国に呼び掛けて参加を要請致したいと思つてます。

以上は提案の一部であります。全会員の皆様からですが、大学の事情に詳しい大学教授が中津高校を視察されました。自由な雰囲気

この間、校歌の特に「自由と個人の尊厳」を目標に、「校歌のような学校づくり、校歌のような生徒でありたい」とを合言葉に頑張ってきました。先生方、生徒諸君ともよくその期待に応えてくれました。先だってフランスの教育事情に詳しい大学教授が中津高校を視察されました。自由な雰囲気

後の手段として中津川市の中京学院大学にお願したところ、大学が非常に背を折つてくださり今年から東地区の受験者は、地元の中京学院大学と中津高校で受けられるようになりました。無駄な時間・費用・不安などをなしに自宅から受験できるように、二四年間の懸案を一挙に解決できたことなども嬉しいことでした。本校全日制は県の教育改革計画により、平成十九年度までには全日制単位制普通科の高校に改編されることになっていきます。生徒は、大学のように進路に合わせ、授業科目を選択できたり、少人数での授業など多くのメリットがあります。選択授業と教員が増えますので、教室なども沢山必要となり、校舎も第一棟と第二棟を壊して新築されます。これは中津高校のさらなる飛躍の

チャンスですが、一つ間違えればちやめちやになつてしまふ懸念も大です。私は、制度は変わつても中津高校の伝統など良さを残すよう準備をしてみました。本書は後任の校長の実力におまかせするしかありません。うまくいくことを願っています。

母校の校長を四年勤務めさせていただき、この春定年退職します。

昭和三十四年から国立大学受験に共通一次試験が課せられ、平成二年からは名称が大学入試センター試験に変わりました。本校からの受験者は多数で、東濃地区全体で千数百名が毎年一月岐阜市に泊まりがけで受験しなければなりません。私はこの課題を解決するため、県教委や校長会などにも名古屋受験をはたらきかけましたがうまくいきませんでした。最

中のにも規律があり、生徒と先生の間の信頼関係も深く、学校全体が伸び伸びといて、フラダンスの真実を上げていた。校長として本心に願うと思つた。昭和五十四年から国立大学の受験に共通一次試験が課せられ、平成二年からは名称が大学入試センター試験に変わりました。本校からの受験者は多数で、東濃地区全体で千数百名が毎年一月岐阜市に泊まりがけで受験しなければなりません。私はこの課題を解決するため、県教委や校長会などにも名古屋受験をはたらきかけましたがうまくいきませんでした。最

感謝、感謝、感謝です。

三回生の増田義明先生に次いで十二回生の私が二人目の母校の校長をさせていただきますました。幸せであるとともに責任も重大でした。関東O日会、名古屋同窓会、恵北四分校同窓会、定時制同窓会などに暖かく迎えていただき励ましながら頑張りました。同窓会の皆様をはじめ、二万数千名の同窓生の皆様を支えていただきありがとうございます。

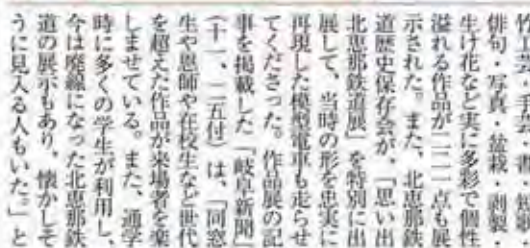


皆様に感謝

学校長 山本 完六 (十二回生)



交流作品展 盛大に開かれる



伝えていた。作品展を見学された方は、「もっと、

特集 中津高等学校・創立100年の歴史

銅像のおじい様

高女三七回生 間 多勢子



明治40年頃 第2回卒業生 間 多勢子(伊藤) 間 小鈴(創立当時)

中津高校も御目出度く、百周年も間近になりました。「花も雷の若核」と歌われて、三戦の工場へ学徒動員された戦時中の女学生も、七四才の婆となりまして、祖父九代左右衛門の事を書くように、とお話を頂きまして、一向にまともらず、困った次第でございます。祖父は弘化二年(一八四五年)生まれ、大正四年、亡くなっておりまして、昭和三年生まれの私は、銅像のおじい様と幼い頃から話の中ばかりで、なじんで参りました。私の実父は左右衛門の妹の長男、実母は左右衛門の四女(たかし)子沢山で四人幼くして天折母は十二目目に生まれましたので、これに閉じられるように、と、十二と名づけられました。

厳格で、日頃は質素、儉約がモットー、「苗字帯刀の家柄にふさわしく儀式的物だけは、と沢山の嫁入り仕度をして貰っても、お父様が優しい好い人やなんて一度も思った事がなかったと実母、「お祖父様が家中見渡せる部屋に座って、おしきせ(定置晩酌)がすむと煙草盆のきせるをポーンと叩いて一日中の氣に入らない事をブツブツ言い出さ



明治41年頃 間空右衛門の娘、孫、姪達 前列左より 古畑いし 山口とも(久野) 後列左より 可知久賀(田口) 間小鈴(伊藤) 藤原新代(間) 五島十二(間)

これが中津高女第一回卒業生、一年は岐阜高女へ参りまして、中津高女が出来ましたので一年生を二回やっただと申しております。養父は左右衛門の弟、間三吉の次男、左右衛門の長女が加子母村の庄屋へ嫁ぎまして、由あって一女を伴って帰りました娘が養母、この夫婦に子供がなくて血縁の近い私が一才直前に買われて、左右衛門家の膝元の分家で祖母始め、多く伯父伯母に囲まれて育ちました。二人の母から聞く祖父は言葉は少くとも大変

つせると恐ろしくて、そつと二階へ上って勉強したもやつた。と養母がよく話しておりました。明治、大正の時代の間家は大家族で二男三女の夫婦が分家するまでは同居、家族使用人合わせて四十人ぐらゐの時もありました。うで家長として厳然としていたけれど、昭和六三年、十一代連吉(当時東京在住の弁護士)より

元年、祖父は僅か二才で八代から九代左右衛門として家督を譲られ、永代日記を始め、旅日記や種々の記録を細かく毛筆で丹念に書き残しておられます。これらを読みますと母達の話のように厳格なばかりの人ではなく、本当に綿密、且つ誠実、親から受け継いだ財産を元に得た利益は、世の中のために還元すべきだと切実に考えた永代日記がひしひしと胸に迫りました。二才で家督を譲られただけの事はありまして親に比べてはとも出来の良い息子子だったと思われました。当時二男の七助が勉強したさいに東京へ出奔したり、四男の四郎、嫡孫運吉とも御所の中学、一橋や東大へと進む時代になっておりました。多勢の娘、孫娘姪達の女子教育の必要も考えられた事と思います。只今私の手許に祖母「ゆづり」の大正三年の日記が残されておりますが、元日に「朝お祝いのお膳の前に、左右衛門、天神様、白山様(中川神社)へ詣り候、女学校、小学校にて年礼の式あり左右衛門参り候、旭座にて年礼の式あり、左右衛門参り候、旭座にて新年宴会、左右衛門参り候、夕方左右衛門八幡宮へ参詣致し、帰りに宗泉寺へ参詣御先祖様に年札申し候、一月二日午前六時頃より左右衛門門店御し致し候、三日も左右衛門門店御し致し候」とあります。大正四年七月一才で亡くなるまで毎朝、天神様中川神社、八幡神社、お参詣り候、さす明治の人は健脚であった事が窺われます。

茶屋坂の高礼場を少し登った左手(今は道路)に銭湯がありましてそれで成る日出火、物凄い火の粉がすぐ上の竹藪へ移りそうになりました時「お祖父様が女学校に移ると云って浴衣一枚で走って行かした」と養母、いつも女学校へ行く時は羽織、袴の祖父の姿が孫娘には余程異様に思われたのか、よくその話も聞かされた。 「理科の時間以上に金の鳥屋の掃りて一杯機嫌のお祖父様が生きた小鳥の羽根の先を切ったのを懐からとり出して教卓の上へ、はなさないで小鳥がチヨコチヨコ歩いて恥づかりかけた。生物の教材のつもりやったのやなあ」と云う話も聞きました。或る夜中、祖父がトイレに起き廊下から宝蔵の屋根を見上げると人影が瓦を一枚一枚くついている。瓦をめくり下の土を除け鋸で板を切り取って、いざ中へ降りようとする所で大声で「御苦労様でございます。た」と呼んだら一目散に逃げて行ったという話もありました。

女学校校舎建築後も、種々気くばりしておりました。庭園の心字池の事、水道の事、奉安殿、アール門柱と想わせる様な校門の周りにめぐらされた黒い木の欄干等、私の入学した当時は、まだ残っておりまして、祖父の愛した女学校が今日、中津高校として立派に発展されておりますことを、遠く星空から旭ヶ丘を眺めて喜んでおりますことと存じます。いろいろしたお話をさせていただきます。

先輩談話 加藤きくさんとの談話

高女十五回生 加藤きくさんと、高女三十三回生 安藤伸子さん 旭ヶ丘も

「これは何の時の写真?」 「これは同窓会やもんで大勢や。」 「同窓会か。同窓会なら学年とかさん来るでねえ。」 「ここへ先生呼んだわけ?」 「そうやねえ。」 「先生もそいでもハイカラな先生がみえるやない? それこそ女学生にモテるような先生。」 「みんな子供連れて。昔は結婚するやね。」 「みんな、大きい頭や。」 「昔、女学校来てるって人はねえ、頭も良かったやろうし、財政的にも楽やない?」 「政治的にも楽やない?」 「土地があつたもんで、みんな土地のものは、よほど行つてるやろうねえ。」 「下島の方から来る人はみんな下宿やない、寄宿か?」 「寄宿もあつたの? その頃も。」 「寄宿舎、あつたねえ。」 「本上、私たちの同級生でも寄宿舎入つたやけどねえ昔、はいでだんだんだんだん、私も寄宿舎入った事ないもんで知らんだけけど寄宿舎も入つた人が出たり色々して、最近になつてどうしてなのかしらと思つたら食料がなくなつて、食べる物がほいで通える人は通つてくみんを通つたり、どうして通えん人は寄宿舎に入つても通えん人はやどね。」 「貴重な写真やでさあ、この写真なんか?」 「まあいいかげんところで、あきらめておかないかんわねえ。」 「そうやねえ、きりないでねえ。上向いても下向いても、こうやっておき、日向で自分で歩いておれば結構や。」 「きりがないけども私の人生ではあまりいい人生ではなかった。」 「主人に早く別れてみえるでねえ。」 「ほんでも家付きやつたで、嫁に行つたよかあへん、まあいいかげんところで、あきらめておかないかんわねえ。」 「長い人生色々あるで。ほんでもそれこそ大正何年にはいつたわけ知らんけど、大正十二年にこのアルバムが出来てるで十二年に卒業されたわけやね。」



大正12年当時の授業風景

「そうそう十二年に、...」 「この年にはもう卒業してみえたわけやね?」 「そうそう三月で卒業して、まあこんだけ生かさしてもらつたて事は有りかたいと思わないかんわ。どっちがええか分からんけどね。」 「ほんでも女学校まで出してもらつてさあ、行けん人もあるやで。」 「そう思つてこな。」

藤原新代(間)の提供による

特集 中津高等学校・創立〇〇年の歴史

中津高女を創立した間家

十五回生 仁科吉介



中津高校玄関前 間家右衛門重矩の銅像

中津高女は明治三十九年(一九〇六)に創立されたが、それは間家右衛門重矩の寄付によるものであった。編集委員より間家及び中津高女創立に至る背景を書けたの指示があったが、維新後の間本家については資料が散逸しており、現状ではその詳細は不明である。このテーマについては三回にわたって書くべしとの事であったので、今回は間家とはいかなる家柄で、間道重矩は何故中津高女を創立したのかに絞ることにする。

間家は元々近江国(滋賀県)で蒲生氏に仕える武家であったが、江戸初期に中津川に移住した。これを初代とし、間家隆盛の基礎を名乗り、以後左右衛門重矩と名乗り、以後左右衛門重矩を創立したのが三波重友で、系図に「日吉村渡辺氏を養子

此人資性聰明 間道商売繁盛 家大(二富)と記されている。ここに書かれているように、矩友は間家の娘ニクの婿となり、屋号を丸八とした。

検査師、塩専先などで財をなし、荷問屋も営んだ、間家は文化的素養も厚く、殊に俳諧には財を注ぎ込んでいた。天明時代に傘狂といふ俳諧の宗匠が京都にいたが、この人を招いている。「佐久良乃句集」という傘狂の句集を最近発見した。そこには豪壮な間家を訪れて中津川宿の俳人たちと句会を開いたことが記されている。「俳諧は老後のたのしみである。古翁の金言を肯ひ道の修行にことつはる精神をよめるさる、ハ、蓬蘆園の主人至伯子也けり。さはその家のいとく酒造に富みて奇々詭々たる住居の風流はいふもさらによらずこと、是ら繁栄を賀しことおくのミ」とある。間家の屋敷は「奇々詭々たる」もので、その「風流」は言葉に絶すると言う。ここに出た子伯は、丸八六代目間家右衛門重矩のことと、傘狂のはた多くの文化人と交流があった。

中津川宿の基礎をついたのが子伯たちの時代で、幕末にかけて短歌とともに隆盛となる。短歌を通じて、幕末の中津川宿に開花したのが国学であった。このよう文化の素地を築いたのが、間家を始めてと中津川宿を築いた間家と精進は、この帰途に江

戸で平田門に入門する。中津川宿で平田門人となった最初の人である。一方、「一夜」では、主人公青山半蔵は安政三年に横濱青森の公郷村を訪ねた後に平田門人となるとしているが、これは虚構である。

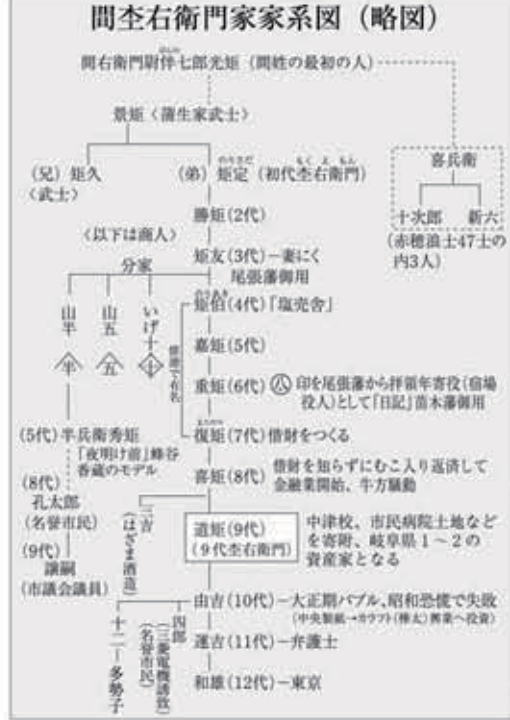
文久元年(一八六一)の和宮降嫁については「夜明け前」も筆立を中心に、かなりの頁をさいていることが書かれていないこと、平田門人の眼であった。和宮に同行した江戸城大奥老女花園の宿所となった山半間は、娘ミツを始め懇切なもてなしをした。これに感激した花園は箱館や人形を贈った。秀矩は詠んでの長歌では、自身を浦島太郎になぞらえ、玉手箱を開けたと言っている。

元治元年(一八六四)、筑波山で拳兵した水戸浪士が中津川宿を通行した。江戸をめぐらした。鎮撫軍の嚮導を頼むといふ書状が届いた。間秀矩も市岡股政も嚮導役とな

間秀矩と「夜明け前」

丸八間家から分家し、酒造業を生業としたのが山半間半兵衛秀矩で、島崎藤村「夜明け前」の蜂谷香蔵のモデルである。

蜂谷香蔵は宮川寛斎とともに、安政六年(一八五九)横濱に生糸交易の宮川寛斎は秀矩の姉婿の婿で、馬島精庵といふことは事実である。秀矩と精庵は、この帰途に江



進路レポート

本校の最近の進路状況に特に大きな変化はない。ただ、進路環境には特筆すべき変化があった。それは、平成十四年からセンター試験を中津川市で受験できるようにになったことである。センター試験は今までは泊まりがけで岐阜まで出かけていたが、それが、山本完六校長の尽力と、中京学院大学の勇断で東濃地区千数百名の受験生が地元でセンター試験を受けられるようになったわけである。このことは、本校の進路状況に必ずプラスの結果をもたらすと思われる。さて、進路状況に大きな変化はないが、時代の変化に応じて指導体制の方にはいくつかの変化があるので、ここではそれを紹介したい。

①サテライト講座

まず紹介したいのが衛星放送による補習講座である。これは、学校五日制の実施による授業時間減の対策として検討していたが、三年生の受験補習として有効に利用できるかどうかということでも導入に踏み切った。受信設備などに同窓会からも経済的援助をいただいた。この場

②出前講義

大学の入り方ではなく、その中身すなわち学問内容に注目させようというところで、昨今多くの大学が提供してくれている出前講義を積極的に利用することを計画した。その第二回は平成十二年六月に、本校第十回卒業生の長村洋先生、藤田保健先生、大津大学教授、衛生学大教授、理系は「これからの理系は何を学ぶべきか」というテーマで講義を実施した。その後、早稲田大学文学部教授安藤文久先生、岐阜大学文学部教授竹内豊英先生と都合三回実施してきたが、いずれの講義でも受講した生徒には大好評で、大学を目指す意欲が湧いたという感想などもあり、是非もう一度欲しいという声が強かった。将来的には生徒全員が一度は講義を受けられるような方策を考慮して行きたい。

- ## 卒業生文庫紹介
- 「二ノ一」 岩波書店
 - 「歌の基盤」 北冬舎
 - 「煙火」 大島史洋 千四回
 - 「大島史洋」 千四回
 - 「大島史洋」 千四回
 - 「大島史洋」 千四回
 - 「自分で選んだ終末医療」 朝日新聞社
 - 「懐かしの北濃鉄道」 岐阜新聞社
 - 「吉村 毅」 千三回
 - 「句集 泉藍」 朝日新聞社
 - 「小南千賀子(定住四回)」 自家出版
 - 「句集 初穂」 自家出版
 - 「大山清亮(高女二十回)」 九善
 - 「分析学」 九善
 - 「植植 新」 他(八回)
 - 「輪(ころ)」 自家出版
 - 「平野和男」 二回

岐阜県立中津高等学校 創立一〇〇周年記念事業案



趣意、事業、行事内容について(概略案)

一〇〇周年実行委員長

十二回生 三尾義彦

中津高等学校同窓生の皆さん、お元気ですか！ さてこの度、不肖私が実行委員長を受け賜り、その責任の重さに困惑している毎日であります。これまでに三回程実行委員会を開き、皆様の意見を集約してまいりましたので、その内容を報告します。

1、創立一〇〇周年という歴史的な節目の「創立記念式典」を意識してなるべく多くの同窓会員を結集し、同窓会員を中心にした事業にすること。

2、箱物の建設は考えず、中津高校へ入学した生徒の向上のため、グローバルな視点に立った事業を考える。

3、中津高校の今後の発展と充実に役立つ事業にする。

以上のようなことで、皆様の汗と英知を結集しなければなりません。皆様もご記憶にありますように「創立九十周年記念式典」は「女学生像」の設置、同窓生二名による「公開講座」等、中津高校らしいユニークな事業が出来ました。「創立一〇〇周年記念式典」の具体的な内容に就きましては、次の通りです。



日曜日会場 東美ふれあいセンター全額と歌舞伎ホール

1、日時 平成十七年(二〇〇五年)十月第二土、日曜日二日間 2(イ) 土曜日 場所 中津高等学校 在校生主体の式典、事業サービズ 講演会、コンサート、芸術展 (ロ) 日曜日 場所 東美ふれあいセンター 中津高等学校及び定時制の同窓生一五〇〇名動員目標(各学年五十名)

3、特別記念事業 一〇〇周年記念旭陵海外奨学金制度を設ける。毎年二名、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド等の英語圏へ二年生の在校生を派遣する。(一年間) 十年間三十名の学生を海外へ派遣しグローバルな社会に適応出来る人材を育成する。このための特別記念事業委員会及び、基金の募金を企画する。(約三、〇〇万円)

4、記念誌の刊行 皆様の絶大な御協力と御理解、よろしくお願います。

一〇〇周年記念事業に向けて……お願い 一〇〇周年実行委員会委員と有志でプロジェクトチームを編成し、記念事業の内容を次年度の総会に向け練り上げてゆく予定です。ご意見を同窓生のホームページか、中津高校同窓会事務局までお寄せ下さい。

創立一〇〇周年の記念事業について

十二回生 梅村 薫

創立百周年の記念事業に、ずしも保存管理が良いとはついで、同窓役員の中には、言えない。その他に飾りきれいなままの作品も有るし、多額の寄付金を募って、ハコモノを作るのはふさわしくないのではないか。という意見が聞かれる。私は、そうした意見に次のような理由で異を唱えたい。 一、百周年は創立記念として最大の節目のひとつである。百周年の次には百十年を祝おうが百二十年を祝おうが、それらは単なる通過点に過ぎず次々たる大きな節目は二百周年となる筈である。母校のその大きな節目に同窓生達、次の二百年目に繋がるような目に見える何かを後世に残したいと思わないだろうか。 二、創立八十周年(昭和六二)の記念事業募金として、二五〇万円の目標額を掲げ、学校の隣接地(六三三草木)の購入と庭園の整備を呼びかけた。その隣接地の購入にあたっては、「将来の学校施設建設のための隣接地の購入」(八十周年記念事業募金趣意書)とうたい、近い将来この土地に同窓会館を建てようとする目論見もあった。今は、弓道部の練習場となつているが、募金の趣旨は「弓道部の創設」ではなくて「将来の学校施設建設」のための土地購入であった筈である。 三、その同窓会館をギャラリーやライブラリーとすることである。中津高校の同窓生には芸術家を多し、校内のあちこちに同窓生の絵画が飾つてあるが、必

村高校には立派な同窓会館が同窓生の手によって建てられていた。中津高校もこの百周年で建てなければ水久に建てては出来ないように思う。幸いにして、ここ数年で校舎の改装が行われる予定であり、校地全体の中に同窓会館を位置付けるチャンスでもある。 四、同窓生に寄付を呼びかけるとき、同窓生は自分たちや同世代が生きた足跡を母校に残したいと思うし、その足跡から在校生たちが影響を受け学んでもらえたいところによると、記念事業として海外奨学金を創設して多くの人材を英語圏に送り出したいということである。母校の人材育成とこのその趣旨を全て否定するわけではないが、それを記念事業の中心に据えることは、寄付に添うものであろうか。寄付金に対する免税措置も受けにくいと聞く。現代においては、仮りに経済的理由から留學基金の世話になつたとしても、その基金の有難味よりも、自分の能力で可能になつたと思う若者の方が多いように思える。 我々が生きている時代の最大の創立の節目である百周年にふさわしい記念事業を、同窓生の智慧と創意で考え出したいと思う。

100周年記念事業 芸術展のお知らせ

卒業生の芸術作品展を八十周年、九十年と記念行事として開催して参りました。一〇〇周年にも是非充実した展覧会を開催できるように計画しております。すでに前回は参加された方には後日案内がいきますのでご協力をお願い致します。 前回未参加のかた、ここ二十年間の卒業生で美術、書道、工芸などの作品を制作され、発表できる方は中津高校同窓会事務局まで一報下さい。

中津高等学校創立一〇〇周年 実行委員会組織

Table listing the organizational structure of the commemorative committee, including roles like Chairman, Secretary, Treasurer, and various committees with their respective members.

活躍する卒業生



企業倫理を大切に...

田辺製薬株式会社 代表取締役社長 葉山 夏樹 (九回生)

昭和三年度第九回の卒業生です。今、再び越前谷併で揃っている木曾郡山田村からの通学組でした。

昭和二八年に読書村に蘇南高校が創立され、山田村では中津高校と蘇南高校へ行く二組に分かれました。

私は母が中津高女、姉二人も中津高卒という馴染みと通学の便を考えて中津を選択したように記憶しています。

通学は、現在の十九号とは異なり、落合ダム湖に沿って曲りくねった凸凹道を、濃飛バスで落合駅迄出て、JRに乗換えて通いました。

何故か、早春のこのまじと新緑、中津駅に下りた時流れていた「エデンの東」が鮮明に思い出されます。

大学は富山大学へ進み、三七年に田辺製薬へ入社しました。耳順も既に過ぎ、定年後の三分の一は山紫水明の故郷山口で過ごそうと考えていた矢先、現職に就任を要請されました。いささかというより大いに遠慮致しましたが、故郷に墓参の折、

私が身をおく医薬品産業も例外ではありません。医薬の進歩が日本を世界一の長寿国実現に貢献しましたが、生活様式の変化と長寿が新しい疾病をまねいて医療費の増大をもたらす、国

民的課題となっており、医薬品の開発競争は世界規模となり、外資系大手メーカーとの競争は熾烈を極めていいます。

田辺製薬は本年創業三十五年を迎える日本で最も古い製薬メーカーです。「健康で豊かな暮らしを願う世界の人々に貢献する」ことを経営理念として掲げる田辺製薬は、国内メーカーに先駆けて世界中で汎用される薬を創製してまいりました。

また、省資源・知識集約型の製薬産業は、技術と知識立国を目指す日本に相応しい産業です。田辺製薬は、企業倫理を大切に、積極的な研究開発活動により、人々に喜んで使っていただける薬づくりに通じて、世界の医療と日本経済の発展に貢献していきたく考えております。

卒業から半世紀を経て

山口村村長 加藤 出 (七回生)

有り、忘れることのない貴重なものになった。昭和三年十月に本村にあって歴史的異変が起こった。それは島崎藤村生誕地の神坂村が村を二分して中津川市と山口村に編入する分村合併をしたからである。

その一か月後、私は村役場に入り悲劇的分村合併の後遺症が続く中で、新しい村づくりの一員として関わって来ました。村民の努力でようやく癒えたと思いきや、今度は借金大国になった国の財政破綻に端を発し、国策として自主的合併の推進とは言い、平成の大合併がアメとムチで強力に推進さ

昭和三年三月に中津高校工業科(土木)を卒業しました。大変な就職難の時代であり殆ど人が就職先のないまま社会に出た。幸い私は村内で発電所の建設工事がはじまったばかりの関西電力(株)山口発電所建設所土木課に臨時社員として発電所完成まで勤める事ができた。ここで得た実務経験が後の人生の礎で

れている。あれから半世紀が過ぎた今、社会は大きく変わり電話やテレビが有るのは今や当たり前、携帯電話はインターネットなどの情報手段も進歩し、道路網は整備され、各家庭に一台は乗用車の有る時代だ。私たちの生活行動範囲が飛躍的に広がった結果、様々な公共施設を一つに整備して、近隣住民が相互に利用できるようにしたりする。とで、市町村の枠にとらわれない広域的なまちづくりのニーズが高まっている。また一方で、この五十年の間に新たな社会問題も生

活躍する在校生

茨城総体に出場して

3F 陸上部 徳丸 達之

私は茨城総体に出場が決まった瞬間の喜びを忘れることができません。二年間の目標だったのが本当に嬉しかったです。

私は入部当初から目標をインターハイ出場に定めて練習してきました。しかし、中津高校は進学校ですので工業や商業高校の陸上部と比べると練習時間は少ないです。また、部内に競い合うライバルもいないので練習に緊張感がなくなり、練習意識を維持することに苦労しました。その中で、顧問の渡辺先生の存在は大きかったです。先生は本当に上手に入れました。私自身も嬉しかったのですが、渡辺先生も自分のことのように喜んでくれました。



茨城インターハイでは全力を尽くしましたが予選で敗退し悔しかったです。私の長所は容易に満足しないことです。この悔しさを競技者である限り忘れてはいけないことだと思っています。結果(インターハイ出場)を出して恩返しをしようと思つて誓っていました。

そして、三年最後の県大会を終え、東海大会を突破して、インターハイの切符を手に入れました。私自身も嬉しかったのですが、渡辺先生も自分のことのように喜んでくれました。

今、母校のある中津川市を中心とした日常生活圏域の恵北六町村に県境越えの本村も仲間入りし、この地域の将来を見据え、歴史と文化を大切に、今の豊かな故郷や自然を残し、産業の繁栄と財政整備を整え、生き生きとした住民の生活と願っています。

大変厳しい時代のなか同窓生の絆を大切に、同窓会がますますのご発展を祈ります。

同窓会ゴルフコンパ



旭陵ゴルフ会主催のゴルフコンパが九月三日、ユイグリーングCにおいて開催されました。当コンパも年々盛んになり、今回は第一回から第四回卒業までの一六六名が参加されました。好天に恵まれグリーンのあちこちで好プレー、珍プレーに歓声が聞こえ、旧交を温め、情報を交換し、有意義な一日となりました。プレー終了後、当ゴルフ場のクラブハウスには全員が集合し、表彰式とパーティーが行われ、遠来の先輩諸氏の挨拶や、参加者のいつまでも元気に参加したいな

●平成15年度 中津高校同窓会総会 五月十日(土)午後二時 勝 宗 幹事 2313回 多数のご参加をお願い致します。

中津高校定時制 同窓会総会 平成十五年(二〇〇三年)七月十三日(日)午前十時 デリア中津川 同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

「週間朝日」連載 「日本の名門高校ベスト100」に本校が掲載(西日本編)されました。 2002年 8/30号

恩師 追悼

恩師 故松原鐵之先生



1950年の美術部員と故松原鐵之先生

三回生 笠木 茂

松原鐵之先生を中央にしたこの写真は、一九五〇年の秋に撮影されたものである。半世紀前のこの写真は翌年の三月に卒業される予定の、私より一級上の安藤幸雄さんと吉村正美さんの卒業アルバムに載せるために撮影された美術部員のほぼ全員の写真である。ほと...

竹谷勝嘉先生をしのんで

高女四十回卒 市川 悦子



近頃例のない酷暑のなかで竹谷先生御逝去の訃報を聞いたのは七月二四日だった。

六月始めに名古屋市中開かれた同窓会に、体調がすぐれないからと欠席され、その折寄せられたお手紙に「米寿と孫娘の成人式を一緒に祝うのを楽しみにしている」と、例の流れるような達筆で記されており、次回お目文字の叶うのを期待していただけに残念でたまらない。竹谷先生に初めてお目に...

かかったのは、昭和十九年四月、桜の咲き誇る旭ヶ丘「温良貞淑」を旨とし、クラスも佳・良・美と名付けられた良妻賢母養成の女学校。私は一年良組で竹谷先生に担任していただき、物のない戦争末期だったが、進学出来た喜びに胸を躍らせて通学していた。校庭の東端の傾斜地に梅林があり、一面に小さい草花が青い可憐な花を咲かせていた。この梅林にはその後空襲に備えてタコソボを掘った。先生はその花を手に取り「この花の名を知っている人？」と尋ねられ、少し顔を赤くしながら「オオイヌフグリ」と教えてくださった。春先あのかわいい花を見る度に遠い昔が...

松原弘先生を偲ぶ

三回生 長瀬 幸雄



松原弘先生が逝去されて、もう一年以上過ぎようとして居ますが、私の心の中ではまだいつてもお会い出来る様な気がしてなりません。先生は中津高校には昭和二年から三十年まで理科(化学)の教諭として、又昭和五年から五年の二年間校長として在職されました。先生は普通の高校の教職員の方々と比べるとユニークな御経歴の持主です。少く御紹介させていただきますと、大正七年のお生まれで旧制恵那中、旧制岐阜薬専を卒業の後、一時民間会社にお勤めになりましたが、先の戦争で応召、実戦に遭遇され、片足も失われ傷病軍人となられ内地にも旧中津商業の教員となられ、戦後学制の改革で中津高校及び中津商業高に奉職の後土岐商高、中津高校、中津商高の校長を歴任、御退任の後中京短期大学の教授として活躍されました。その間地線(ヘボ)の成人の研究により薬学博士号を取得されています。障害をもつものもいないで、そして人に感じさせないで、すばらしい人生を全うすると云う、今こそ、こういう方に教育の現場に居ていただきたいと思うのは、私はばかりではないと思います。

微笑ましく思い出される。その頃先生はまだ独身の青年教師で(当時は佐伯先生といった)東門寺に下宿されていて、毎朝上金の裏門から颯爽と入ってこられるお姿が、少しは跳ねるような特徴のある歩き方で、それが上級生から「カエル」というニックネームを連呼された由来だと知った。一年生も後半近くになると戦争がますます激しくなり、上級生は三菱(動員)され、学校内にも機銃類が持ち込まれ、校内でも機銃の音、下級生も又勤務奉仕でお百姓の手伝いや、運動場の一部を掘り起こして甘藷畑にしたりで、まともに勉強が出来なくなりました。そんな時職員室脇の掲示板に時間割の表が変更を記入されるのはいつも竹谷先生。苦手の学科が抜けたりと内心喜びながら、多様な調整で大変なお仕事だなぁと思つたものでした。戦後は学校生活も一変して女学校にもソフトボール部が出来、先生は顧問をされておられたと、熱心なご指導のおかげで、岐阜市長良球場での県大会で準優勝したと、先生の御舞臺に参列する際、車の中で当時ソフト部キャプテンだった友人が懐かしそうに話してくれました。二十年ほど中津高校(中津高女を含む)に在職された後郷里に戻られ、可見市内の高校を最後に退職されたが、その後地域域の公民館長を務められたり、可見市市久々利にある泳宮という景行天皇の遺跡の研究に情熱を傾けておいでだった。岐阜市での同窓会の帰りに...

恩師訃報

平成十三年度名簿発行時にわかった方々です。

- 浅野静枝 (高女)
- 昭二一、二、三年生
- 齊藤(林) 志津 (高女)
- 大一一、昭四在籍
- 新津(上田) 志満 (高女)
- 大一一、四在籍
- 市川敏三 (高女)
- 昭四一、昭四二、昭四三、昭四四、昭四五在籍
- 渡辺純義 (高女)
- 昭三三、昭三七在籍
- 岩井一三 (高女)
- 昭三三、昭三八在籍
- 坂井好明 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 藤原(内池) 邦子 (高女)
- 昭四五、昭四六在籍
- 田口俊平 (高女)
- 昭二七、二八在籍
- 戸川周二 (高女)
- 昭五三、昭五七在籍
- 中野秀雄 (高女)
- 昭二五、二六在籍
- 藤本松久 (高女)
- 昭二九、四一在籍
- 安江悦蔵 (高女)
- 昭二二、二七在籍
- 山内 保 (高女全定)
- 昭三四、四四在籍
- 山田常弥 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 藤原良子 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 廣瀬正友 (高女)
- 昭二四、四五在籍
- 板津エツ (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 小島 稔 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 中川克介 (高女)
- 昭二九、三三、三九在籍
- 川口敬想 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 曾我俊一 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 山口力造 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 高橋信雄 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 杉浦 誠 (高女)
- 昭二四、二五在籍
- 志知憲次 (高女)
- 昭五四、六五在籍
- 安江茂三郎 (高女)
- 昭二四、三三、三九在籍

平成十四年度 全日同窓会総会開催

平成十四年度中津高校同窓会総会が開かれ、長村洋一教授(十二回生)の講演もあり七十名の盛会となる。

平成十四年度の中津高校同窓会総会が五月十一日(第二土曜 母の日)に、勝宗に於いて開かれた。吉田同窓会長、山本校長の挨拶に続き、前年度の事業報告・会計報告、今年度の事業計画・予算案を全会一致で承認したあと、平成十七年秋に予定される一〇〇周年記念事業について準備実行委員会の組織案(木紙第四面に掲載)と、記念諸事業の実施、事業費の募金活動、記念誌の発行などの諸計画が発表されて全会一致で了承された。

毎年の恒例により、平成十四年度の定時制同窓会総会が、七月十四日(七月の



平成十四年度中津高校定時制同窓会総会

小川勇氏(定商四回生)に同窓会表彰を行い、一層の活躍をお祈りした。

第二日曜日)にディア中津川にて、山本校長中島教頭を迎え、二三名の出席者によって開かれた。和田会長、小川・佐藤副会長、横家会計の三役の留任を決め、前年度の事業・会計報告を了承した。今年度の総会では、地歌舞伎の写真を撮り続けて「アビエル平和芸術伝道賞」を受賞された高木孝雄氏(定普三回生)と、揮画を描き続けて数々の賞を受けられ地域でポランテア活動を続けてみえる



右は勝田保健衛生大学の長村洋一教授(12回)

「いまどきの健康食品」と題する講演があった。氏は「ベータカロチンやポリフェノールは癌の予防にいいというが、食品を抽出した薬や食品では却ってマイナスであり、自然状態において摂取する事が大切である。アガリクスに火をつけた先生が痛でなくなったが、アガリクスが全く効かないかどうかはわからない。癌の中には自然に治癒する場合もかなりある。過度に神経質になると、一切農薬を使わない一個四〇〇円のカリフ

中津高校定時制 同窓会総会を開催

引き続いての懇親会は和氣薊々と盛り上がり三時間に及んだ。平成十五年度の総会は七月十三日(日)ディア中津川で十一時間開会の予定です。多数の同窓生の皆さんのご参加をお待ちしております。

定時制四分校・本校 交流懇親会開催

四年前の定時制五十周年記念事業の開催を機に発足した、加母・付知・福園・苗本の四分校と本校の同窓生の年に一度の交流懇親会が、平成十四年度は付知分校が幹事役となり、五月十八日(土)に付知町の料

オルミアレモンを食べることになるが、世界の総人口の三人に一人は食べる物に困り、逆に三人に一人が太り過ぎに困るといふ状態のなかで、自分が少しくらい長生きする為にそんなレモンを食べても良いのかという事も考えてみたい。」となかなか示唆に富んだ話をされた。

その後、恒例の懇親会が一階の大広間で、先業後輩の枠を超えて大いに交流が深まった。今回は、第十一回と第十二回が幹事役ということ、十二回生は長村君の講演を聴きたいという楽しみもあり、二十三名が出席し、総会七十名、懇親会六七名と今回の同窓会総会は大変盛況であった。来年度以降も、総会出席者の増加の為にさまざまな工夫が期待される。



定時制4分校・本校 交流懇親会

亭「いろり火」で開かれた。本校長以下定時制職員合わせて二四名が参加し、山菜の珍味に舌鼓を打ちながら、昨年十一月に行なった作品展の想い出話などに花が咲き、楽しく懐かしい一日となった。毎年行っていますので一度ご参加下さい。

関東支部だより

十一月九日、都心のホテルグランドパレスにて、当幹事十六回生世話人 花田昭夫 関東在住OBを中心に一七〇人が参加して開催されました。



十一月九日、都心のホテルグランドパレスにて

開催時間の一時間以上前から各参加者が続々と来場され、幹事役の十六回生の面々は大大世話人として、各回生毎の世話人のてきばきとした受付、会費徴収で予定の十二時三十分より会は開催。坂本関東OB会会長の開会の辞で始まり、お招

名古屋支部だより

中津高等学校同窓会名古屋地区会の第六回総会および懇親会が平成十四年十月十九日(土)、前回と同じ会場である名古屋市地下のホテル、ルブラ王山で開催されました。

第一回は平成三年十一月に東山会館で一六〇名、第二回は平成五年十一月に同じく東山会館で一六〇名、第三回は平成八年十一月に厚生年金会館で一四〇名、第四回は平成十年十一月に中田パレスで一四〇名、そして前回の第五回は平成十二年十一月に一五〇名の出席のもと、ルブラ王山で開催してまいりました。

年次別に選任された幹事の皆さんによる幹事会を三回にわたり開催し、また会長、副会長および事務局による総合せの会合を数回開き、総会ならびに懇親会の準備をしてまいりました。

第八回総会および懇親会開催の報告

案内発送の対象回生は一回生(昭和五五年卒業)から第十七回生(昭和四十四年卒業)までとし、愛知県在住の会員(約二〇〇名)のほか、名古屋近郊にお住まいの岐阜県、三重県の会員の皆様約四〇〇名の方々に案内発送いたしました。

その結果、当日は一四三名の会員の皆様方にご出席いただきました。ただ残念なことに、一五〇枚の案内を発送いたしましたが出欠の出欠のハガキが五〇〇通近くあったこと、出席のご返事をいただいたことが当日なんらの連絡なく欠席された方、いわゆる「ドタキャン」の方が数名いたこと、当日ご出席された皆様の貴重な会費のうちから、それらの費用が浪費されたこと、であります。

当日は、一四三名の会員の皆様は、第六回生の市岡伸幸先生の司会で進められました。第一回生の宮原典男氏の開会の辞の後、第六回生の前田寿太郎氏(第五回生)の挨拶、そして事務局から経過報告および今年度の概略が報告されました。この二年間での物故者の追悼が行われた後、議長に第三回生の北峰雄氏が選出され、議案の審議に入りました。

第七期の会長に新たに第七回生の井坂孝信氏が、また副会長には第五回生の猪飼美喜子氏および第七回生の古井良平氏の再任がそれぞれ満場一致で可決されました。新役員を代表して、井坂新会長より挨拶があった後、吉川会長および山本校長先

生より祝辞を頂戴しました。総会の最後は猪飼副会長の指揮および第二回生の鈴木英子さんのピアノ伴奏により校歌を斉唱しました。総会の閉会の辞を第二回生の山本完六校長先生そして恩師として糸川忠堂先生をお招きしました。

同窓会の雰囲気となり、また、幹事役が各回生毎の持ち回りとなっており、これが各回生毎の結束を深め、回生毎の世話人のご協力関東OB会の年々の盛り上がりになっていきます。

次年度は十七回生が幹事役として渡辺世話人が各幹事の紹介と、会運営の抱負を述べた後、全員で校歌を斉唱し三時三十分には散会。この後は各回生毎に二次会、三次会が続いたようです。

同窓会・同窓生だより(全日制)

戦中戦後の学生時代
 一 同生 青木隆子
 太平洋戦争末期の昭和十九年四月、私は憧れの県立中津高等女学校に入学した。戦時中の事とて母の希望で作ったモンペを履いて通学した。学校では授業の合間を縫って食糧増産や新荷負いの勤労作業に汗した。
 二年生の夏に終戦となり二十三年三月に学制改革のため旧制中津高女最後の卒業生となった。大半の学友は卒業し、残る私達は新制高校二年生に編入した。
 高校三年生の一年間は男女共学であった。当時総合制と小学区制の実施で校内は相当の混雑ぶりだとまどい多い体験ばかりだった。
 この年思いがけず二度もの

で遅くて下さった。
 「お小休」とは文字どおり道中の一服どころ、ハイウェイならサービスエリアである。先生はご用意頂いた古文書を繰り、由緒を幾分かお話し下さった。中でも文久元年の皇女和宮のお小休については行列の様子を刻明に記した巻物を覗いて下さった。
 二 同生 西戸 登
 先年イタリア旅行をし、ミラノで夕食をとるべく、パレルモに近い小さなレストランに入りました。ワインでパスタをいただきました。ライブが始まり小さなピアノで男のボーカルが、「オーソレモ」

を唄い出しました。続いて「マリアマリア」「サンクルア」と知った歌許りで嬉しくなり、しばらくして肉料理となり一段落したあと、「カロミオベン」を素晴らしい声で唄い出しました。小生食べるのを止めて口ずさみました。「何を歌えるの」と聞かれました。「何で歌えるの」と聞かれました。「何で歌えるの」と聞かれました。「何で歌えるの」と聞かれました。
燦愛会(三二)
 三 同生 柳澤敏夫
 戦争の傷跡もまださめぬ昭和二十四年に我々三同生は中津高校に入学した。この地域に学区制がひかれ地元の中津はすべて新制の中津高であった。我々旧制の教育を受けたものにはホームルーム、男女共学、移動教室、など新しい事ばかりでおまけに夏休みの前後の二回の火災などあり、いろいろの思いをよせて卒業した。
 卒業一年後三年一組は高校時代の思い出を話そうと正月に落合見晴荘で担任の糸魚川忠平先生を招待してクラス会を開いた。三十人位集り高校時代にあまり話せなかつた女の子とも話が出来る楽しい会が出来た。その後、大学卒業、社会人、結婚、子育てと社会

の荒波に立ち向いそれぞれの道で社会貢献をしてきたと思えます。三十年位たってクラス会の再会を頼み平成二年に同じ見晴で開催出来、再会を喜び毎年開く事に決定、今年十三回目の燦愛会(三二)が出来た。今年我々も七十代先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

た人が何人かあり残念でしたが、私自身も二年後が保障される訳でもありませんが、充分健康に気を付けてから、二年後の名古屋の会で元気な皆さんと逢える事を楽しみにして居ります。当日の写真です。皆さんの顔分かりますか。
「お小休本陣」を訪ねて
 六 同生 田口良平
 そのお小休(おこやす)本陣は中山道大井宿と中津川宿の中程、茄子川村にあった。始祖は加賀藩出陣の藤原出羽守と伝えられているが、現在の当主は藤原亨先生その人である。
 私達昭和三十年卒三年一組の今年の同窓会では、担任の道四〇〇年に因んで、担任である藤原先生宅を訪ねる企画であった。先生はどちらが生徒が見聞遠うような若々しさ

を唄い出しました。続いて「マリアマリア」「サンクルア」と知った歌許りで嬉しくなり、しばらくして肉料理となり一段落したあと、「カロミオベン」を素晴らしい声で唄い出しました。小生食べるのを止めて口ずさみました。「何を歌えるの」と聞かれました。「何で歌えるの」と聞かれました。「何で歌えるの」と聞かれました。
同期会報告
 四 同生 倉田京子
 私達四同生は、木々の緑が少しづつ色づきはじめて十月十三日に中津川を一望出来る長多喜で同期会を開催しました。先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

の荒波に立ち向いそれぞれの道で社会貢献をしてきたと思えます。三十年位たってクラス会の再会を頼み平成二年に同じ見晴で開催出来、再会を喜び毎年開く事に決定、今年十三回目の燦愛会(三二)が出来た。今年我々も七十代先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

の荒波に立ち向いそれぞれの道で社会貢献をしてきたと思えます。三十年位たってクラス会の再会を頼み平成二年に同じ見晴で開催出来、再会を喜び毎年開く事に決定、今年十三回目の燦愛会(三二)が出来た。今年我々も七十代先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

園田先生

二 同生 西戸 登
 先年イタリア旅行をし、ミラノで夕食をとるべく、パレルモに近い小さなレストランに入りました。ワインでパスタをいただきました。ライブが始まり小さなピアノで男のボーカルが、「オーソレモ」

の荒波に立ち向いそれぞれの道で社会貢献をしてきたと思えます。三十年位たってクラス会の再会を頼み平成二年に同じ見晴で開催出来、再会を喜び毎年開く事に決定、今年十三回目の燦愛会(三二)が出来た。今年我々も七十代先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

の荒波に立ち向いそれぞれの道で社会貢献をしてきたと思えます。三十年位たってクラス会の再会を頼み平成二年に同じ見晴で開催出来、再会を喜び毎年開く事に決定、今年十三回目の燦愛会(三二)が出来た。今年我々も七十代先魚川先生、長瀬先生、花田先生御三人をお迎えし、総勢六七名の出席でした。関東地区からの出席も多く、又倉敷の中瀬さん、宝塚の小久保さん等遠くから参加してもらって世話人としては成功だったと感謝して居る処です。
 終了後二次会三次会とおそくまで楽しめました。
 翌日は糸魚川先生の案内で館物博物館見学へ六名、ゴルフコンペ参加者八名と二日目も行事がありお互い楽しんで帰られたようです。
 次回は二年後に名古屋で開催しようかと計画致しました。今回も体調が悪くて欠席され

が二部屋を通してまだ伸びきれないほどの長さであり強さの印象に残ったことである。半世紀振りに藤先生のお話はとても興味深く、物理の講義はとんと分らなかつたが今日の講義はよく分った、と云うのが一同の声であった。当時のままと云う立派な厨を神妙に拝見した後、場所を暖めたことは申すまでもない。何も肩に力を入れる必要はないが、今年の同窓会は殊の外意味深いものであった。

の閉会あいさつ、西尾夫君の乾杯発声で始まり、退去者への一分間の黙祷ののち、約三時間の歓談を楽しみ、旧交を温めました。
 ほとんどの仲間が、定年退職して第二の人生を歩んでいますが、まだまだ現役で活躍している者も居ります。
 「また、年後の再会を楽しみに……」という、梶原光男君の閉会あいさつの後、幕は閉じられました。
 又、その後二十数名の者は二次会へと流れましたことを付記します。

の閉会あいさつ、西尾夫君の乾杯発声で始まり、退去者への一分間の黙祷ののち、約三時間の歓談を楽しみ、旧交を温めました。
 ほとんどの仲間が、定年退職して第二の人生を歩んでいますが、まだまだ現役で活躍している者も居ります。
 「また、年後の再会を楽しみに……」という、梶原光男君の閉会あいさつの後、幕は閉じられました。
 又、その後二十数名の者は二次会へと流れましたことを付記します。

の閉会あいさつ、西尾夫君の乾杯発声で始まり、退去者への一分間の黙祷ののち、約三時間の歓談を楽しみ、旧交を温めました。
 ほとんどの仲間が、定年退職して第二の人生を歩んでいますが、まだまだ現役で活躍している者も居ります。
 「また、年後の再会を楽しみに……」という、梶原光男君の閉会あいさつの後、幕は閉じられました。
 又、その後二十数名の者は二次会へと流れましたことを付記します。

同窓会開催

七 同生 渡辺 梓
 昭和三年三月卒業の、第七同生(普通科H・I・J組)の同窓会が、二年振りに、四年十月二十六日(土)市内北野丸山の「木曾路」で開催されました。

の閉会あいさつ、西尾夫君の乾杯発声で始まり、退去者への一分間の黙祷ののち、約三時間の歓談を楽しみ、旧交を温めました。
 ほとんどの仲間が、定年退職して第二の人生を歩んでいますが、まだまだ現役で活躍している者も居ります。
 「また、年後の再会を楽しみに……」という、梶原光男君の閉会あいさつの後、幕は閉じられました。
 又、その後二十数名の者は二次会へと流れましたことを付記します。

の閉会あいさつ、西尾夫君の乾杯発声で始まり、退去者への一分間の黙祷ののち、約三時間の歓談を楽しみ、旧交を温めました。
 ほとんどの仲間が、定年退職して第二の人生を歩んでいますが、まだまだ現役で活躍している者も居ります。
 「また、年後の再会を楽しみに……」という、梶原光男君の閉会あいさつの後、幕は閉じられました。
 又、その後二十数名の者は二次会へと流れましたことを付記します。



昭和三年三月卒業の、第七同生(普通科H・I・J組)の同窓会が、二年振りに、四年十月二十六日(土)市内北野丸山の「木曾路」で開催されました。

在校時は、百七十七名(総科転校を含む)の級友でしたが、住所不明者が十名、亡くなった者が十名居ります。
 そのなかには卒業以来初めて参加する者も、名いました。大野五君の司会、塚田晃君

の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が

の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が

次回は一〇〇周年に

八 同生 早川章南
 三年ごとのDEFの第十六回同窓会を〇二年八月三十一日木曾町富貴の森ホテルで開催出席四十五名、そのうち二十五名が宿泊しました。閉会山中

の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が

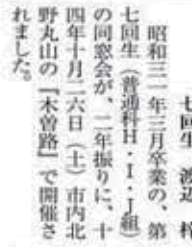
の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が

鷺羽山の虹と夕日

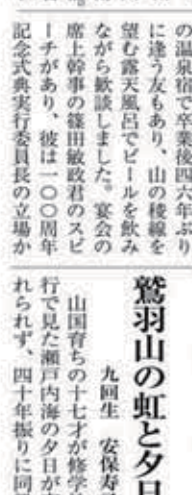
九 同生 安保寿子
 山国育ちの十七才が修学旅行で見た瀬戸内海の夕日が忘れられず、四十年振りに同級

の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が

の温泉宿で卒業後四六年ぶりに逢う友もあり、山の緑を望む露天風呂でビールを飲みながら歓談しました。宴会の席上幹事の篠田政君のスピーチがあり、彼は一〇〇周年記念式典実行委員長の立場が



昭和三年三月卒業の、第七同生(普通科H・I・J組)の同窓会が、二年振りに、四年十月二十六日(土)市内北野丸山の「木曾路」で開催されました。



昭和三年三月卒業の、第七同生(普通科H・I・J組)の同窓会が、二年振りに、四年十月二十六日(土)市内北野丸山の「木曾路」で開催されました。

同窓会・同窓生だより(全日制)

還暦同級会開く

十二回生 梅村 薫

平成十四(二〇〇二)年壬午(みずのえうま)に還暦を迎えた昭和三六(一九六一)年三月卒業の第十二回生D E F組は、去る八月十七日(日)に勝宗にて同級会を開催した。D E Fの担任のうち、ただ一人健康でご存命の熊崎公平先生をお招きした同級会は、還暦の節目ということもあり十二回生が幹事役を務めた五月の同窓会総会での盛り上がりもあって、五三名が参加した。卒業以来初めてという同級生の参加もあり正午から始めた懇親会はいつ果てるとも恐れぬ話に花が咲いた。お互い原点にかえってこれからの人生を充実さ



17613号 還暦同級会
三年後の十月「中津高校一〇〇周年記念」に合わせて開く

健康な笑顔で

十六回生 此原 一

第十六回生も今や五六才、還暦まであと四年となりました。「還暦時には華やかに開催しようよ」と言うのを含み言葉のようにして、それもお呼びが掛ければ十人、二十人の在野メンバーが集まり、華の中津高校生にとり、お喋りにカラオケに、お食事に、と大騒ぎの一時を過ごします。一体高校時代からどれくらい成長したの?といった疑問が湧いてきそうなコトナ(こども)大人の合成語?の集まりです。しかし、気負いも気取りも地位も名譽(?)もなく、会えば瞬く間に素直に受け入れることの良さは正に



同級生ならではの。還暦まであと一シンクイヤー。「健康な笑顔でまた会おうね」と言い交わして別れた、その半年後には、どこかの居酒屋からまた十六回生の笑い声が聞こえて来るのです。

高校時代の思い出

十七回生 加藤 正文

子供の愛読に臨み、高校時代先生が書いてくれた成績証明書のコマンドを思い出しました。その四文字熟語がとても良い言葉で、低い成績を評価欄で盛り上げてやろうとして下さる気持ちの程の程の程、とても嬉しかったです。当時の担任は糸魚川忠平先生で、愛称は糸魚さんと呼んでいました。今でも、元気に町の中を自転車で走っている姿を見かけます。糸魚さんに教えてもらい、子供に伝えている言葉があります。それは「Mと三Aです。Mとは、無理、無駄、無意味、Aとは、無気な、慌てる、諦めるな、です。私はその言葉に加えて、美しく、正しく、能率、効果、確率、理解、説得、納得、と教えています。子供とは、親の言うことは聞かず、するこ



とを真似ると言われています。通じているかわかりませんが、実践と人格を伴った人生の師に会うことが大事だと思っています。二十世紀は物の時代、二十一世紀は心の時代と言われています。今、全ての世代に欠けているものは、道徳、倫理、正しい宗教だと思っています。

鹿児島県指宿より

二十回生 田原 迫みき子

中津高校一〇〇周年ほんとうにおめでとーございませう。鹿児島県指宿市(いぶすき)には、中津高校の卒業生が二名います。S二四年卒の東郷伸美(旧姓 勝)さんと私です。嫁に来た頃、突然東郷さんからお電話をいただきました。「中津高校の同窓会名簿に載っていたので、なつかしくて、約二五年前の事でした。しかもご近所でした。同窓会名簿に感謝しなければ」と思うこととでございました。

母校への期待

二十回生 杉本 潤

「……雲霧東郷の懐で、木曾の流れに身を清め、……」これは、三十年前の体育祭での口上である。素晴らしい自

創立一〇〇周年記念

二三回生 川上 信一

高校時代の思い出は、やはり部活が一番、市内の中学でライバルだった人たちと共に卓球部へ入部しました。しかしながら当時、体育館は他の部と共用で一日おきに外でランニング。ボールを打つ練習時間を取るには、朝練習やステージに卓球台をのせて練習という日々でした。一年生の時、東灘大会ダブルス出場の出場選手選考で校内予選場の出場権を争い、仲間と勝ち上がったにもかかわらず出場機会を奪えられなかったことをよく覚えております。うれしかったこととして、団体戦では県内大会準優勝、仲間であるY君とK君はインターハイ出場という立派な成績を残した仲間とは、十二月三

今思ふ事

二三回生 野村 正成

昭和四六年の二三回生として卒業した私は、五〇才の中年としてバブル時代とその崩壊時代に生き、今のこの経済状況の中で必死に頑張

タイムスリップ

二二回生 葛西 勉

平成十三年八月十一日我々三年C組は単独で同窓会を開きました。長多喜さんのご好意により大変お値打ちに又予定の時間を大幅に超える楽しい時間を過ごす事が出来ました。卒業以来初めての同窓会の為顔を見ても名前を名乗らないと解らない人も何人か見えました。そこは同じ釜の飯を食った者同士、三十年の時間をいっしょにタイムスリップしてあの夢多かり青春時代に戻る事が出来ました。頭が寂し

今思ふ事

二三回生 野村 正成

昭和四六年の二三回生として卒業した私は、五〇才の中年としてバブル時代とその崩壊時代に生き、今のこの経済状況の中で必死に頑張

ながら家庭を守り、会社を守り重戦車のごとく突進してこられたのが、創設時の思いに応える為、母校の発展と後輩への指導、そして郷土の発展に共に尽力する事を期待しています。

なから家庭を守り、会社を守り重戦車のごとく突進してこられたのが、創設時の思いに応える為、母校の発展と後輩への指導、そして郷土の発展に共に尽力する事を期待しています。

十日に「あら尾」にて忘年会を続けておもしろい。変化は他部の人も混ざり、変化はしてきておりますが、今はラケットをゴルフクラブに持ち替え、二三回生の仲間二十人ほどで「馬已会」と名付けたゴルフコンペで盛り上がり五

十日に「あら尾」にて忘年会を続けておもしろい。変化は他部の人も混ざり、変化はしてきておりますが、今はラケットをゴルフクラブに持ち替え、二三回生の仲間二十人ほどで「馬已会」と名付けたゴルフコンペで盛り上がり五

の節目に昔思いを寄せていたあの子(M君)に会いたくて、新任教員会を開きました。新任でクラス担任をされた稲田先生(嫁さんを見つけたら出身地の関西へ帰ってしまい、現在大阪の高校で教頭先生と名を交えて思い出話で楽しい時を過ごしました。でもM君、何故あなたはそんなにまぶしいの……? クラスの花 S&M



の節目に昔思いを寄せていたあの子(M君)に会いたくて、新任教員会を開きました。新任でクラス担任をされた稲田先生(嫁さんを見つけたら出身地の関西へ帰ってしまい、現在大阪の高校で教頭先生と名を交えて思い出話で楽しい時を過ごしました。でもM君、何故あなたはそんなにまぶしいの……? クラスの花 S&M

同窓会・同窓生だより(全日制)

中津高校

二九回生 伊藤伸介
先日、久しぶりに中津高校に立ち寄ってみると、三年間通った学舎は、少し老朽はしていましたが、当時と同じ姿でそこにあり、高校時代の事が懐しく思い出されました。ただ昔の第一体育館とクラブ活動で使用していた第二体育館は取り壊されて、新しい大きな体育館が建てられており、四半世紀の時の流れを感じました。

吹奏部の思い出

三十四回生 小南寿美代
中津高校を卒業して早や二十年以上が過ぎました。学生の頃の思い出といえばやはり部活動でしょうか。私は吹奏部に所属していました。一年生前半は、倉庫の様な部屋の裏で、マウスピースを吹くだけの練習。これが退屈でこれほど時間の流れをゆっく



り感た事はありませんでした。ですから楽器を持たせてもらった時のうれしさといった思いが、今もなお心に残っています。その他にも、一生懸命練習したにもかかわらず思った様な成績が出せず悔し涙を流したコンクール、けんかしながら作り上げていった演奏会など思い出は数えきれません。個人練習、パートでの練習をつみ重ね、全員で一つの曲を完成させた時、沢山の仲間で作りに上げていく素晴らしい思い出が思い出されます。完成させるまでの生徒たちの姿が、学生の頃の私たちとダブルからも感じられます。

同窓会開催

三二回生 小川賢津子

旭陵の地を巣立ってから年月を思い出すと、まさに「光陰矢の如し」の感を強くします。教室で、部活や部室で、あるいは登下校での些細な出来事を断片的に思い出しながら、思い出は数えきれません。分がその場所にあるか、自分が不思議な気持ちになることがあります。

かけがえないもの

三九回生 小川 歩

「ウツ 重い」目を開けると、私と瓜ふたつの息子がにっこり笑っている。いつものように今日が始まる。

スローと同窓会

定十五回生 佐藤和男

十年ひと昔、若い人々は五年、いやいやパソコンなんかは一年ひと昔です、と言います。そんな風に競争に明け暮れている世界では、速いことが良いことで、振り返る時も惜しんで前進ばかりしています。

四四回生同窓会

四四回生 市川晴久

四四回生は卒業後十年が過ぎ、地元から離れた者や結婚した者、子供が誕生した者の話、また、中津高校卒業の先輩や後輩と同じ職場で働く話を聞いておられます。

同窓会・同窓生だより(定時制)

ボランティア活動

定商四回生 小川 勇

伝統ある機関紙(会報)に寄稿させていただける光栄を感じながら現在の地域活動の一環として、報告申し上げます。平成十一年十月だったと思います。中津川市の社会福祉事業として「南区ふれあいサロン」の名の下に、独居老人の食事会が行われました。いつもなら一人で淋しい食事をする人達が一堂に集まり、目を輝かせてわいわいがやがやと世間話をして楽しく過ごされているのを見て、こういう機会を多く作ってやるのが、一つの楽しみになり、生き甲斐を感じ、また人と人の和が出来るのではないかと思います。

道

夢中で古希まであるいて来た

西七区には普通の師範校田区長、水園画を二十数年書いて見ると古井さきみ江さん、私は日本福音教会の付属教場の教師の免許があり、普通道・水墨画・揮毫の前記三者を合わせて「墨に親しむ会」と命名。常務は、早速同窓会に各々の方々の申し込みを受け、現在執行しています。(月一回、第二第四火曜日、時間は十三時

これから一層のつながりを

定商四回生 三戸 長

刻が経つのは早いもので「中津高定時制創立五十周年記念事業」から四年、「同窓会交流作前歴」から二年を経過した。いずれも企画の段階では多くの問題を抱えていたが、本校と四分校が抱え出した強い強運で成功裡に終わることができた。

定商七回卒の同窓会

定商七回生 伊藤孝男

平成十四年四月三日、二年ぶりに同窓会を苗木・しろやまにて開催しました。所二三名の方に参加して頂きました。同窓で今度は北海道へ行くことではないかと話がまとまり、十四名の参加を得て九月二六日、八日と行ってきました。旧本州製紙鶴君の案内で鶴路公園、オンネット阿栗湖、摩周湖、硫黄山、標津川川の湖上、鋼路温泉と廻って来ました。

スローと同窓会

定十五回生 佐藤和男

十年ひと昔、若い人々は五年、いやいやパソコンなんかは一年ひと昔です、と言います。そんな風に競争に明け暮れている世界では、速いことが良いことで、振り返る時も惜しんで前進ばかりしています。

四四回生同窓会

四四回生 市川晴久

四四回生は卒業後十年が過ぎ、地元から離れた者や結婚した者、子供が誕生した者の話、また、中津高校卒業の先輩や後輩と同じ職場で働く話を聞いておられます。

スローと同窓会

定十五回生 佐藤和男

十年ひと昔、若い人々は五年、いやいやパソコンなんかは一年ひと昔です、と言います。そんな風に競争に明け暮れている世界では、速いことが良いことで、振り返る時も惜しんで前進ばかりしています。

早速、地域の老人会長であ

これはあくまでボランティア活動であり、奉仕であると考えています。このことは、ボランティアで何々をして上げたのではなく、ボランティアで何々をさせていただいたという感謝の気持ちが大前提であると思います。

その後、折角こうした取組みを通して互いが知り合えたのだから、今後も交流を図りつなぐを一層強めていこうと、一昨年は福岡で、昨年は付知で飲みながらの「合同幹事会」を開いてきた。学校長・教頭を始め、定時制の先生方も大勢参加して下さり、会は大いに盛り上がり、教育問題は勿論のこと政治、経済、文化、医療福祉など話題も豊かで話は尽きない。二つの事業がなかつたら、こうしたことは全然考えられなかったことを思うと、これらの事業が果たした役割は極めて大きかった。今後も益々連帯を深め、中津高発展のために、また今進められている高校の統廃合や

定時制の切捨て問題のために尽くせたらと願っている。今年も苗木が当番である。今から楽しみにしている。

た網ですくい、水槽付きの車で野化場へ運ぶ。公園の水路では湖上する船の手づかみも出来た。広大な鋼路温泉を展望台から眺め、空港へ着く手前では低空で二羽の鶴が見送りに飛来して、天気にも恵まれ大盛況の連続の三日間でした。

「趣味ではあるが、幸せな生活。二年前の夏、当時の卒業生すべてを対象にした同窓会が開かれた。クラス会程度のものであったが、これだけ一回に会したものは、卒業以来、初めたものは、卒業以来、友人に感謝するとともに、久しぶりの再会に、心が踊る。約二時間半、飲むことも食べることも忘れた。同じ歳ではあるが、人人生それぞれ。

四四回生は卒業後十年が過ぎ、地元から離れた者や結婚した者、子供が誕生した者の話、また、中津高校卒業の先輩や後輩と同じ職場で働く話を聞いておられます。

同窓会・同窓生だより(女学校)

入学してから七〇年

高女二五回生 大山幹枝
月日の経つのは早いもので私達が創立中津高等女学校へ入学してから七十余年になります。其の頃は着物を袴の姿でした。都会では洋服を着て居た。二年生の半ば位から制服になりました。又校舎のすぐ裏に寄宿舎があつて遠く通えない者が入つて居ました。学校には畳の部屋があつて作法の時に接客やお茶の出し方、畳の上の歩き方等を習つたものです。今は男女共学です。今は家庭でも洋服が取り入れられる様になりました。昔を懐かしく思い出して

ある思い出

高女二七回生 熊崎久枝
県立中津高女
四年生に進みました年、クラス全員で「流浪の民」のコーラスを在校生の皆さんに、聴いていただいた思い出を、手紙で書かせていただきました。



中津高女合唱団の学生像「草創のころ」

母校中津高女

高女二八回生 丹羽さだ
私ども高女二八回生は、昭和七年度入学、十一年三月卒業である。その頃の世の中は不況であつたといわれているが、



私などは大人になつてから知つた。入学志望者も少なくて全員入学できた。四年生の時、私どもの組が岐阜県下で優勝したのはバスケットボールで一杯でした。人の心を和ませ、一つにまとめてくれるコーラス！音楽は世界中に理解されると言う事を、若き日の師は私共に教えて下さりました。亡き師に合掌してペンをおきます。

卒業記念アルバムにある、優勝した時の写真はいつ見てもすがすがしい。昭和十一年二月二六日、小雪の舞う中を登校すると、原田先生が教室に來られて、「きょうは東京でどえらいことが起こつて居るぞ。それで宿直室のラジオはつけろ」とおっしゃつた。私はその時ラジオの電力をつけ放して聞かんなんらほの大事件なのだと思つた。昭和初期は電力は大切に使用したものだ。私は木曾郡山口村の出で、村内に発電所もあつたが、各家庭でも電力は節約して使つていた。のちにこの二・二六事件をくわしく調べる作家も出て、歴史というものは、時間を経て少しはつきりしてくるものだと思つた。私は昭和二十二年から大阪府内に住んで、ふるさとへ帰る時は、車窓から恵那山を眺め、次に母校の中津高校を見る。作法室に時の文部大臣、鳩山一郎氏の筆になる、「温良貞淑」の校調が掲げられていた。私は八十歳の生涯をかえりみて、この校調に少しも近づけたかどうかを思ふ。同級会では「女学校へ出してもらつてありがたかつた」と語り合つた。



母校、中津高女よ幸あれ、恵那山よ美しくあれ。

あれから

高女二九回生 丸山淑子
私達が四年生の時三〇周年を行いました。早一〇〇周年とはお目出度うございます。

月日のたつのは早いものです。若い時代には一度はクラス会を行いました。若くは、次第に遠のき、湯沢氏のクアソートを最後に、その時の幹事さんが市川久美子(細川)さんでした。三、四年後に交通事故でお亡くなりになりました。数えれば私達の同級生は半数ほどとなりました。御冥福をお祈りします。丈夫な方でも八二才ともなります。腰が曲がったり痛かたりして満足な方々をかぞえるほどです。

ご主人を亡くした方々……杖をたよりに歩いている姿を想像して下さい。年を取りたくありません。三十周年の時、一〇〇年にはぜひと皆で誓つた言葉が思い出されます。益々のご発展を心よりお祈りします。

私事、曾孫が出来て七ヶ月ほどになりました。追つて知恵が付き毎日が楽しみです。一首

秋空より花降ることし 櫻児の覚え初めにし 発語のひびき

近況

高女三二回生 西尾直子
「晩秋の母校を訪ひぬ久びさに」恵那山空に鶯ゆ

は…… かつての校歌を口ずさみ乍ら坂道を登つて見ました。校門をくぐると間翁と九十周年記念のモニユメント女学生像が……伝統は引継がれていたのです。一礼してふりむくと立派な体育館が建てられていました。次に近況を御報告申し上げます。毎年統括して参りましたクラス会は平成十一年に幕を下ろしました。現在は旧市内の現住者が月一回の例会をもつて旧交を温めています。話題は盡きる事無く皆さんそれぞれに生きがいを見つけて頑張つています。

高女時代の校歌
私達は正末期生れに中津高女の三二回卒業生となり、以後幾星霜、現在中津高等女学校となり、来る二〇〇五年には創立百周年を迎える事となります。

思えば私達高女時代の校歌は、 恵那山空にそびゆるは 希望の高嶺の水久のしるし 歌の心はひたぶるに 登る坂路のしおりにて 旭ヶ丘にいそむは ぐさぐさの乙女われら 深くも清きは何のさとし 物みな新たに進みゆく 日夜毎の鐘にて 旭ヶ丘にいそむは ぐさぐさの乙女われら

事も忘れません。現在では孫の三男がお世話になつて居ります。日々感謝致して居ります。最後に旭ヶ丘の地に聲え建つ中津高等女学校が益々発展することを祈念致します。

皆様の「ご多幸を」
中津高女創立百周年を迎えますことは誠に御慶びです。私達でどうもありがとうございます。私達は三三回卒業生で、昭和十六年に卒業しました。其の年の十二月大東亜戦争勃発となり厳しい戦時下、それぞれ社会人となり終戦を迎えました。平成十四年には七八才を迎え、四年の歳月の流れは人生の

きびしさを乗り越え、やがて静かな老後の毎日を送つていきます。同級会も毎年一回開き場所は中津川近くで四十人位集まります。校歌を合唱する時は十代の昔に戻り、思いは一つ感無量です。今でも中津川の人達だけ二十人位、毎月一回食事しながらのおしゃべりを楽しんでます。趣味で俳句、カラオケ、民謡と、元気で頑張つてみます。此の年でずか足腰の痛みや何等かの不調はありますが、こうして治つたのよとお互いに慰め合つています。恵那山の見える此の中津川に生まれ老いてゆく幸せを感じます。中津高校の通学生姿を見る度、自分の子供達の姿を思い出して、

なつかしく嬉しく思います。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

愛国の花たち
卒業式歌を「海征かば水づく屍、山征かば草むす屍、大君の辺にこそ死なめかえりみはせじ」と歌い、校門前で在校生の唱う愛国行進曲に送られて大戦下の銃後を守る愛国の花たちは喜寿を迎える今年も同窓会を開くことが出来た。一年振りの再会に互いの健在を喜び、心なごむ語らいの一夜は若き日の想い出へと話は尽きない。

「この学年は明るい」と教師が言われる元気印で、教師の温良、貞淑、賢素

勤勉にも背かぬ真面目な女学生だった。いま傍らに在るTVが急に大声を出した。驚いて注目すると指導者の就任記念日祝賀準備に沸く人達を報道している。

「私らの修学旅行は、宮城外苑の除草作業だった。『け』』と思ひ出が暗くなつて来る。終つて統制化の許可を開く事と真実を知ることも無く戦禍の中に埋没した共通話を持つ友人との逢瀬は懐かしくて楽しい。

「来年も頼むぞ！」と別れを惜しむ友。旭陵の麓で暮らす者が飽きもしないで、また次会の日程を立てるのである。

同窓会・同窓生だより(女学校)

年一回のクラス会

二〇〇三年三月、女学校三十四回生一〇五名はそれぞれ喜ぶを乗り切ることが出来ました。かなり名簿は淋しくなりましたが激動の時代をよく生きたという感慨と今また予想し得な次の節目に向けて元気でいたいという願望をもって年一回のクラス会は続いていきます。

昨年は春四月、四十名が賑やかに恵那のグランドホテルに集い、お互いの無事を喜び合いました。

深く重い人生だった



人も平穏な過程だった人も、今また社会的なポジションについてその仕事を果している人も、すっかり昔に返って来の間を楽しまました。遙かな記憶を辿りつつ懐かしい歌を数々唱って心一つにしました。たった四年間に結ばれた絆は最近になってますます強くなり、あちこちでミニクラス会も行われていくように風の便りにききます。

次会は土岐市で開催の予定です。あの人もこの人も多数出席できるよう誰もが念じつつ心待ちしていることと思います。

三六回の皆さんへ

高女三六回生 田中よね子
第三六回卒業生の皆さんその後如何お過ごしかとお伺い致します。今を去る昭和十九年卒



業以来早くも六十年近くになろうとして居ります。あの頃乙女の夢をふくらませて茶屋坂を上ったのもつい昨日のこの様に想い出されます。

此の高齢化社会にあつて七十才過ぎても皆さん益々お元気に日々々多方向に励む等々で、そのいき

山路むじんニュース

高女三七回生 横山静子
山路同窓会は毎年続いて開かれています。平成の十四年は名古屋

面に御活躍と察します。恵那地区も十人余居住して居ります。年に何回かはさきさき合つて会食し旧交を温めて居ります。

此の写真は花見を兼ねて名古屋の東谷山フルーツパークに有志のみにて遠征した折りのスナップです。

好天に恵まれ楽しい一日でした。

これからも皆さん充分体気をつけてお過ごし下さるよう此の紙面を借りて御健勝を心よりお祈り致します。

地区の方が、高島屋十五階のマリオットアソシアホテルで開いて下さってフランス料理を食べながら友好を深めました。

十五年は高女の地元、中津地区が当番です。さいわい月に一回の山路むじんを続けていますので立案から実行へと進める事が出来ると思います。

十六名の会員で、人の入れ替りは多少ありましたが、わが幼子を連れ歩いた頃からの付き合い合いです。この頃は杖使用の友、伴侶の他界など心配な面も多くなりました。文芸、文化と趣味が話題になる折高女時代の先生それぞれから人間味溢れる熱心な指導を受けた学力は生き少しくても若いうちに

クラス会

高女三八回生 安藤伸子
高女三八回卒のクラス会は中津川の当番で五月二十八日料理旅館木曾路において、開催した。前日の雨も上がり樹々の緑も爽やかな五月晴れのもと東から西から集って下さった六四名



が女学生に戻り受け付けたばかりです。近隣地区からの応援も受け、一車買い切り十八名は、佐渡の風土、この地で生きた人々の歴史、かもめとの船旅など、感動のよい旅を喜びました。

と云う間に刻も過ぎ来年度は恵那の明智線方面にお願ひし、各自残債しみつづつ会を閉じます。

残念な事は当日お手伝い下さった林和子さんが七月三十日に亡くなり、次いで九月十一日に千藤叔子さんと今年中津在住者にとつて淋しい事でした。御冥福をお祈りします。

同期会開催

高女三九回生 竹原、伊藤、福田
平成十四年十月二日、割烹旅館「木曾路」にて、当番中津地区が日帰りの同期会を開催したところ、六一名の方が出席され、今まで最高の出席率でした。得意な民謡、演歌



等も披露され大いに盛り上がり、やつぱり「ふる里」

みんな元気

高女四十回生 太田みち子
平成十四年六月三日中津高等学校第四十回卒業生の同窓会を、名古屋市のマリオットアソシアホテル五階ジュビタの間で開催し、五五名が集いました。古着を迎えた私達ですが現役で忙しかつたり、ボランティア



に帰省しての会を次回も持ちたいと云う希望が多ありました。そして同期生の実家「やまつの菊牛券」「二葉軒の恵那万十」など中津川の名産をみやげに楽しく帰られました。

最後の女学生

併中二回生 岡本寿子
希望に胸を膨らませて、女学生として入学した最後の二二〇名の私達は、其の後「学区制」となり恵那地区中津川地区と分かれる事になりました。

そして統合となり「男女共学」「移動教室」での授業と目紛しく変わる教育で大変でした。そんな中でも同窓会の度に話題

いことした姿にお互い嬉しく又心強く思いました。幸い天候にも恵まれた高層ビルからの一望で、名古屋の街の景観に出席者一同感嘆の声をあげるオマケつきでした。

次回も健康で再会を喜び合いたいと思います。

になるのが、戦争中に練開してみえた立派な先生方のこと、そして女学生として入学した当時は先輩達の恐ろしかったこと、廊下を通るのにも先輩と目標が合うと覗まれるからと云つて下を向いて歩いたこと、「心字池」「梅林」旭ヶ丘から眺める恵那山の美しいこと等々、今年「巨福」を迎える私達は中津川の当番として新緑に薫る六月七日に快晴に恵まれ「木曾路」にて六十名の出席を得て同窓会を致しました。

「詩吟」「詩舞」「大正装束」の発表をして下さり、「女学校合唱」や「そうび」を大合唱し三年後恵那の方達に当番をお願ひし、再会を約束してお聞きと致しました。

編集後記

十四回生 富田順子
今回の新聞は一〇〇周年に向けて、三段跳びで言えばホップ、ステップ、ジャンプのうちのホップ号です。

在校生も含め同窓生が日々動く今日の情勢の中で、一〇〇周年の節目を如何に有意義に迎えられるかを目標に、編集員一同紙面作り心に砕いてきました。

一〇〇周年の記念行事、記念事業を盛り上げる為のブレイン・ミーティング等々申しませうか。今号から二〇〇五年号までは一〇〇周年の記念誌編集委員も全員新聞の編集委員を兼務して紙面作りに参加して頂いております。

一人一人の同窓生の総意で一〇〇周年の節目を実りあるもの出来るように、新聞に関しても、記念誌に関しても、それぞれ忌憚のないご意見をお寄せいただけるように存じます。

- 編集委員
- 編集長 吉川 秀一(五回)
 - 副編集長 菅井 基雄(二回)
 - 委員 富田 順子(十四回)
 - 山口 正徳(五回)
 - 安藤 伸子(三八回)
 - 山田 孝子(八回)
 - 大野 英(七回)
 - 早川 富雄(八回)
 - 阿部 武典(十四回)
 - 高田 松三(十四回)
 - 千原 幸子(十四回)
 - 梅村 麻子(十四回)
 - 田代 太朗(十三回)
 - 藤原 昌子(十三回)
 - 伊藤 美子(三八回)
- 発行 平成十五年三月
岐阜県立中津高等学校
〒506-8501 同窓会
中津川中津川一〇八の二
- HP <http://www.kobecnews.jp>
kobecnews@nifty.jp
E-mail kobecnews@nifty.jp
FAX 0573-66-1362
(利用下さい)